

会 議 録

1 会議名

令和4年度 第2回春日区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

(1) 自主的審議事項（公開）

- ① 春日山城跡に係る市の取組について
- ② 各分科会における審議の状況について

(2) 報告事項（公開）

地域自治推進プロジェクト及び令和4年度の地域協議会の取組等について

3 開催日時

令和4年5月17日（火）午後6時30分から午後9時15分まで

4 開催場所

市民プラザ 第1会議室

5 傍聴人の数

1人

6 非公開の理由

なし

7 出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

- ・ 委員：市川 優、太田一巳（会長）、岡本重孝、白濱昭博、田中裕子（副会長）
谷 健一、藤田晴子、本多俊雄、丸山佳子、山田 孝、吉田 実（副会長）
吉田義昭、渡邊康子、渡部忠行（欠席3人）
- ・ 市役所：観光交流推進課 丸田課長、五十嵐副課長、矢代企画係長、宮澤主事
- ・ 事務局：中部まちづくりセンター 小林センター長、藤井係長、山崎主事

8 発言の内容（要旨）

【藤井係長】

- ・ 会議の開会を宣言
- ・ 上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

【太田会長】

- ・挨拶

【藤井係長】

- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第 8 条第 1 項の規定により、会長が議長を務めることを報告

【太田会長】

- ・会議録の確認：本多委員に依頼

次第 3 議題「(1) 自主的審議事項」の「①春日山城跡に係る市の取組について」に入る。事務局より説明を求める。

【藤井係長】

- ・説明

【観光交流推進課 丸田課長】

- ・資料 1 等により、説明

【太田会長】

今ほどの説明に質疑を求める。

【田中副会長】

観光入込客数の算出方法を教えてほしい。

埋蔵文化財センターやうみがたりは入館者がはっきりしているため分かるのだが、観桜会や謙信公祭等はどうなかたちで来場者数を見ているのか知りたい。

いつも、新聞発表を見て驚くようなことがあるため、どのように計算しているのか教えてほしい。

【観光交流推進課 丸田課長】

入込客数は、それぞれの施設やイベント等のトータルの数字である。

人数については、単純に人数を数えることができる施設もあるが、イベント等はなかなか数えきれないものではない。

例えば、観桜会であれば、1 日の中で定点観測をして、そこに時間数をかける、或いは車の台数を計測しているため、そこに乗車人数をかけて算出する等した数字の積み重ねである。

【太田会長】

他に質問等あるか。

【山田委員】

春日山に一義会という団体があり、春日区の地域活動支援事業に提案して、鎧や甲冑を購入したことがある。そういった武具を、せっかく購入したのだから活用してはどうか。

一生懸命に活動していることは知っているが、一義会が購入した甲冑等を着用しているところを見たことがない。購入後、着用した姿や写真等を見ていないだけかもしれないが、一義会に話をして活用する場を作ってはどうか。

【観光交流推進課 丸田課長】

一義会の活動内容を知っている委員がいれば、教えてほしい。

【太田会長】

私は謙信公祭の実行委員会や、地域のことに関わっているため、詳しくはないが、一義会の活動について少し話をする。

8月の謙信公祭の話があったが、武将隊の出陣だけではなく武禊式や出陣式等で、例年、春日山神社の前のステージにて、一義会が甲冑を着て式典を行っているのを見てほしい。

また、春日商工振興会を中心に開催していた「にぎわい市」では、地域活動支援事業で、甲冑を購入したことから、武禊式の発表・演舞を行ったこともある。

そのほか、ときめき鉄道が運行している「雪月花」が春日山駅を通過する際には、甲冑を着用して見送りをしている。

こうした活動が、情報の発信不足等で知られていないので、一義会に話しておきたい。ただ、一義会は可能な限り活動していると思う。

【田中副会長】

私からも補足する。

一義会は、おもてなし武将隊の結成前から、有志で活動していた団体である。

例えば、自分たちでプロモーションをしながら、何かの行事があったときに参加させてもらい、「謙信公を盛り上げたい」といった純粋な思いが出発点だったと思う。

一義会に入っている人から聞いたが、コロナ禍の時でも、ロッテアライリゾートで甲冑を着ながら館内を回ってPRしたり、甲冑が地域活動支援事業に採択される前には、自費で甲冑を購入していた。おもてなし武将隊よりも、本当に長く謙信公に関わる活動をしている団体である。

今後どうなるかは分からないが、一義会は一義会なりのスタンスで活動している。

おもてなし武将隊は、市の行事があったときに出演するなど、市のプロモーションで活動しているので、武将隊と一義会では、立場が違っていると解釈したほうがよいと思う。

【山田委員】

一義会は全部でどのくらいの甲冑を所持しているのか。

【田中副会長】

1人につき甲冑1台だと思う。地域活動支援事業で購入した甲冑は、個人のものではないため、埋蔵文化財センターで保管していると聞いている。

【渡部委員】

資料には非常に詳しくビジョン等が記載されているものの、観光交流推進課が具体的にどういうところを目指しているのか、分かりづらい。

先月、説明いただいた教育委員会は「手を入れるな」といった学者的な方向性だった。歴史を語る学者の話だけを聞いても、次のステップに繋がらない。むしろ観光交流推進課には非常に期待しているが、今までずっとやってきたことに目標は見えなかった。

例えば春日山城跡の周辺に広場があり、お花でも植えると綺麗でよいと思うが、いつも雑草が生い茂っている。今後どうしようとしているのかが見えない。

【太田会長】

場所的には、埋蔵文化財センターから史跡広場に向かっての方向だと思う。

【観光交流推進課 丸田課長】

先回の文化行政課の説明にあったように、史跡等については勝手に手を加えることができないエリアと、そうではないエリアがある。その辺をはっきりとさせながら進めていきたいと思っている。

「ここをこのようにしよう」「何万人もの人が訪れる観光地にしよう」というところは、これから考えていく状況である。

【渡部委員】

私は、いつも広場の草刈りをしているだけでもったいないと思う。あの場所は史跡のため公共的な建物は造れないと地域住民から聞いた。だが、造れないからそのままでは進歩がない。例えば、駐車場等にすれば大きなイベントも開催できると思う。

周辺の駐車場を整備して何かに使用する等、もう少し積極的にあの場所を使うわけ

にはいかないのか。

【観光交流推進課 丸田課長】

そういったことも含めて、考えていきたいと思う。

現時点で、どのようにするといった考えは持ち合わせていない。

今後、我々が計画するための貴重な意見として捉える。

【渡部委員】

あの場所に行った人は皆、「もったいない」と言う。例えば、安塚のヤナギバヒマワリや他地区の芝桜などを植栽できるとよい、と口にしている。

今まではいろいろな事情があって、手を付けることができなかったが、少し着手して行ってほしいと思う。

【本多委員】

数年前に、高田の本町にある町屋施設で観光客から聞いた話がある。上越市は何も宣伝がなく、高田の本町に「どこにいけば、何がある」といったことすら分からないとの事だった。

市は、今では謙信公祭を随分宣伝するようになったが、本当に観光を目的とするなら、もう 1 歩外に向けて発信してもらいたい。どこに何があるかが誰にでも分かるように、アピールも含めて取り組んでほしい。

上越市の中心は高田城址だと思うが、全国的には上杉謙信公の方がはるかに有名である。上越市にも良い山城跡があるということ、アピールしてほしい。

【観光交流推進課 丸田課長】

今後の参考とする。

【吉田 義昭委員】

春日山は、昭和 40 年頃に大河ドラマ「天と地」などで取り上げられてきたが、テレビ放映時にピークを迎え、後はさびれてしまう。だが何か残す方法はあると思う。

例えば、某朝ドラでは放映時に何かを残して、それが観光に結びつき、記念事業となった。記念事業でまた何かを残すことによって、さらに繋がっていき、観光に結びついていく。

各地の行事では、そういう取組がされているので、上越市も是非やっていただきたいと感じている。

【観光交流推進課 丸田課長】

市長も継続性といったところの不足を感じて公約に掲げている部分もあると思う。何かを残す話があったが、今はまだ「何をする」といっことはノープランである。今後の参考として考えていきたいと思う。

【吉田副会長】

私は自主的審議で観光分科会のリーダーをしている。先ほどの話を聞き、市でも観光の方針はゼロという印象である。

これまで「春日山観光」をテーマに挙げた市長は多分いなかった。だが今回、中川市長が「春日山観光」「通年観光」を政策で取り上げているため、春日山にとってはチャンスだと思っている。

春日区地域協議会の分科会では、いろいろな問題等を話し合い、1つの方向性をこれから出していこうとしている。

「天地人」等のテレビドラマの影響で観光客が多く集まった時は、道路が大渋滞し、地元には大迷惑に思われた。地元の人が上杉謙信のことをよく知っている環境を作ってから人を呼び寄せる、これが大前提だと思う。

また、埋蔵文化財センターは入館料が無料だが、川中島などの観光地では1人1,000円程度の入場料は取っていた。展示品も中途半端である。しっかりとした資料館にするため、資料整理は廃校になった学校等を利用するなどして、春日山観光を背負った施設にしてはどうか。

そのほかに、春日山には観光客が土産物を買う場所がない。物産館はあるが中途半端だと思う。春日山に物産館を新たに造ることも考えていかなければならない。

今後は、独自にマスタープランというか、アイデアを出していきたいと思う。

これまでも「フィールドミュージアム構想」などがあったが、具体的なスケジュール等が見られないため、スケジュール化していきたい。

例えばフラワーガーデンのように、地元住民が散歩をしながら、観光客の人も含めて楽しく歩ける環境づくりも大切な一つのアイデアだと思う。

以前、地域協議会で松代に行った際、地元の人がすごく熱心で、観光のキーマンとなる市民がいて、外から来た人たちをもてなしてくれた。

そういう「人づくり」が1番大切なことである。そのような、動く人がいなければ駄目である。それは市全体において、また地域にもそういった人材が必要である。

私は一義会に以前入っていて、観光物産展などで観光PRするときは主役であった。

ミスさくらとともに、武禘式を東京や高崎などで行っていた。そこでは謙信流陣太鼓も演奏されていた。

そういった活動が、最近では武将隊だけで中途半端なように感じる。これからは計画をよく練り、アイデアを出していくことが大切だと思う。

一緒にいろいろと検討をしながら春日山観光の発展を考えていくことを提案したい。それは地域の利益にもなる。地域の人たちも喜ぶような環境づくりが必要である。

【観光交流推進課 丸田課長】

是非また一緒に、いろいろなアイデアを出し合いながら、進めていきたい。

【市川委員】

現在、他の観光地では「トイレ」「駐車場」「食べる場所」の3点がセットになっていると思う。長野県内でも最初に整備するのは、殆ど「トイレ」と「駐車場」である。建物は後から造られている。

残念ながら春日山には、トイレが1か所しかない。下にはあるが、上は見晴らし屋の所だけだと思う。トイレの数が少ないと一番困る。

また、本丸の下の休憩所が壊れたままで、観光客が山を登っても休むところが全然ない。休憩所を早急に復旧していただきたい。

そのほか、埋蔵文化財センターの駐車場は、どこが駐車場なのか全く分からない。何とかあの場所を整備して、大型バス等が来た際には駐車できるようにしてはどうか。

【太田会長】

今の意見も含めて、施策を進めていってほしいと思う。

他に意見等あるか。

(発言なし)

今後、何か気が付いたこと等あれば、自主的審議の観光分科会でも意見を上げながら市の観光に提案ができるよう、話を進めていけばよいと思う。

以上で次第3 議題「(1) 自主的審議事項」の「①春日山城跡に係る市の取組について」を終了する。

次に次第3 議題「(1) 自主的審議事項」の「②各分科会における審議の状況について」に入る。事務局より説明を求める。

【藤井係長】

・説明

【太田会長】

資料 2 に基づき、各分科会より進捗の説明を求める。

なお、質疑は全分科会の進捗状況の説明終了後に 3 分科会まとめて行うこととする。

最初に観光分科会より報告・提案願う。

【吉田副会長】

・資料 2 に基づき説明

【太田会長】

次に安全・安心分科会より報告・提案願う。

【本多委員】

・資料 2 に基づき説明

【太田会長】

次に福祉分科会より報告・提案願う。

【吉田 義昭委員】

・資料 2 に基づき説明

【太田会長】

各分科会の説明に質疑を求める。

【渡部委員】

分科会の内容ではないのだが、事務局に質問である。

最近の市長の発言では、地域自治の仕組みを令和 5 年度に向けて抜本的に見直したいとの事である。そして、地域協議会にまちづくりの方向性を 9 月末までに提出するよう話されている。そうすると、私たちの取組とピントは合っているのか。また今のペースでよいのか。

【太田会長】

それについては、この後の報告事項で説明の場を設けている。

【渡部委員】

このあとも分科会を開催する予定としているが、今のようなペースで進めていてよいのか心配になってきた。そういったところを、事務局でリードやコントロールをしてほしい。

【太田会長】

それについては、次第 3 議題「(2) 報告事項」の中で資料と共に説明がある。

他に質問等あるか。

(発言なし)

私も発言してよいか。

(よしの声)

前回の地域協議会を欠席してしまったため、福祉分科会に確認させてほしい。

資料2「審査内容報告シート」について「審議の背景」に「特に若者の関心が少ない(大豆)」とあり、単独の町名も出ている。この記述には、どのような背景があったのか教えてほしい。

【吉田 義昭委員】

委員からの聞き取りをした中で出た意見であり、他の町内でも同様の意見があったことから全体的な話なのだが、議事録として町内名を書いた。19 町内の中で大豆だけという意味で捉えないでいただきたい。

【太田会長】

大豆町内の「若者世代」がどの年代を指しているのかは分からないが、30、40 歳代は「大豆消防」があり、消防団員がよく連携している。また町内行事等もいろいろな形で協力をしている。

逆に言えば、大豆町内は「若者の関心が多く、元気のよい町内でうらやましい」と隣の町内から見ていた私の感想である。どの町内を見ても「若者の関心が少ない」「参加率が低い」ということは分かるのだが、ここで「大豆」という名前があがってきたことに疑問符が付いた。

【藤田委員】

謙信公祭の踊りには殆ど出てこないが、塞ノ神や健康ウォーク終了後の賄い等には子供会がとても一生懸命である。現在コロナ禍であるため、若者の力を発揮する場がなく、「やはり若者の関心が少ないこともある」といった雰囲気になり町内名が出た。

【太田会長】

了解した。

【吉田 義昭委員】

19 歳から 39 歳の年齢層で、大きなイベント時は参加率が良いが、個々のイベントや行事になると少ない傾向が根本的にある。要するに子育てに一番手がかかる年代なのだと思う。

【太田会長】

他に質問等あるか。

(発言なし)

以上で次第3 議題「(1) 自主的審議事項」の「②各分科会における審議の状況について」を終了する。

次に次第3 議題「(2) 報告事項」の「地域自治推進プロジェクト及び令和4年度の地域協議会の取組について」に入る。事務局より説明を求める。

【小林センター長】

・資料3～3-6に基づき説明

【太田会長】

内容を一度で理解することはなかなか難しいと思う。今ほどの説明に質疑を求める。

【吉田副会長】

元気事業や活性化については、漠然としたつかみようのない話だった。

私は地域協議会委員を4期務めてきた。当初は町内会長たちから「地域協議会なんかいない」、「何のためにこの会はいるのか」、「町内会長たちがいればよい」と言われてやってきた。上越市の取り組みとしてはまだ試行段階で完成しておらず、非常に難しいのだと思う。

市長の交代により方向性に変化はあるが、地域協議会の委員自身がボトムアップで取り組んで行かなければならないと思う。漠然として掴みどころがないが、「具体的に自分たちはこれからどうするのか」「自主的審議の内容が変わるのか」「スケジュールが変わるのか」等の非常に大変な時期という印象を受けた。

【吉田 義昭委員】

春日区地域協議会では3部会で自主的審議を進めている。各部会は今ほど説明のあったような方向で取り組んでいくということか。

【吉田副会長】

期限はある。

【吉田 義昭委員】

取り組みには期限に関係なく最終目標がある。地域に誇りを持つために、現在審議している内容が、そういう方向に持っていけるように導いていただけるのか。

【小林センター長】

まず吉田副会長の発言は、皆が思っていることであり、「なかなか漠然としており、分かり辛い」という話だと思う。地域協議会は前例が少ない中で自主的な地域活動を進めていこうとしていることを理解してほしい。事務局も少しずつ分かりやすくしていきたいと思っている。

次に吉田 義昭委員の発言についてであるが、方向性とは各分科会の審議内容とリンクすると考えている。3つの自主的審議として進めているものを集約すると春日の方向性になると思う。

【渡部委員】

いろいろなことが理解できず面倒くさくて地域協議会委員を辞めたくなくなってしまう。

私たちは比較的単純に、3部会でそれぞれ意見を出し合って進めてきたのだが、市長が交代したからとはいえ、先がよくわからない。事務局からタイムスケジュールや内容を強く導いてもらわなければならない。

例えば、観光分科会は実質3人で進めているが、中川市長や市で考えているような所に到達するとは思えない。そのため3分科会に分けて良かったのか心配である。

【小林センター長】

後から課題を付け加える手法で申し訳ない。まずは、今までどおり自主的審議を進めてほしい。委員の皆さんにはあまりストレスを感じずに自主的審議を進めていただきたい。

方向性は、自主的審議の中で生まれてくるものという認識でいてほしい。当初、分科会の自主的審議の妨げにならぬよう、事務局から時間的な制約やタイムスケジュールを示さないほうがよいと思っていたが、たたき案を示して意見を伺うような体制に変えたいと思う。

【太田会長】

おそらく委員の中には、まだ理解に至っていない部分が多いと思う。

先ほどから、「方向性」との言葉が出ているが、春日区地域協議会の中での方向性は、一つに集約する必要はないように感じた。

現在、3つの分科会に分かれて進めている。それぞれにテーマがあるので、そのまま3本柱の方向性でよい感じがする。そのため、各分科会で目指そうとしているところに向かって、今のまま審議をもう少し進めていけばよいと感じた。

来年度に予算付けする場合、9月までに計画書を作らなければならないため、スケジ

ルールがタイトになるが、他は今まで何ら変わりはないと思った。言葉が難しく理解しづらい部分はあるが、今まで行ってきたことも無駄ではなく、春日区の方角性は三本の柱に向かってこのまま進めていくことでよいと感じた。

【谷 委員】

地域独自予算のための具体的な事業や、予算そのものの捉え方がよく分からない。来年度に何かやるためには、9月頃が目安というが時間はない。もう少し地域独自予算の組み立て方、どのような内容の事業が該当するのかを説明いただきたい。

【渡部委員】

多分まだ何も決まっておらず、来期の予算に組み込むといっても、地域協議会が出した提案が通るとは思えない。市の予算は、担当者が非常に綿密な予算金額や効果等、色々なものを算出して、初めて成立する。私たちが一生懸命に考えても、採用される可能性は非常に低いと思う。その反面、来年は地域活動支援事業補助金がもらえないわけであり、そこに少し矛盾を感じる。

【吉田副会長】

今回で市長は地域活動支援事業をなくすといっているが、これまで各団体が地域の活性化のために提案をしてきた。市長が「無駄遣い」といった一部の意見を聞いて廃止とし、地域の活性化の提案をするように言われている。だから、いきいき春日野のような町内単位のサロン活動は「モデルケース事業」として提案できると思う。具体的に予算化するのは市の仕事であるから「このような事業を行うと地域活性化になる」といったことを提案すればよい。

地域活動支援事業がなくなり、元気事業として訳の分からないものになるが、活性化になるような事業を提案すればゼロではない。来年はしつこく、そういった構想を考えてみるとよい。

【吉田 義昭委員】

町内会から賛同してもらい、共同で市に提案書として提出するなら分かるが、地域協議会の提案がそのまま通ると思えない。

【小林センター長】

地域活動支援事業と元気事業、そして地域独自予算の話が混在している。ここで話し合うべきは、自主的審議を進めるということである。その解決の手法として元気事業があり、可能であれば、9月までに提案をまとめてほしいとお願いしている。間に合

わなくても仕方がないし、必ず元気事業をしなくてはいけない訳ではない。慎重になり過ぎず、地域のことを考える審議を進めてほしい。

【太田会長】

多分、胸のところにまだモヤモヤが残っていると思う。本日は、ここで終了した方がよいと思うが、次回の会議でこの議題を継続して話し合った方がよいか。

【小林センター長】

中部まちづくりセンターに来ていただければ、私から皆さんの質問に詳しく回答させていただきたい。

【太田会長】

個別に小林センター長が対応してくれるとのことである。この件については、個別に事務局へ出向いてほしい。

【谷 委員】

自主的審議が後回しになってしまうので会議の内容や進め方を少し工夫してほしい。

【太田会長】

観光交流推進課の説明時間を長く取り、報告事項の内容も新しいものであったため、本日は時間がかかってしまった。次回の地域協議会については、勉強会や全体会の時間を少し短めに設定し、分科会の協議に重点を置いて進めていきたいと思う。

そのような進め方としてよいか。

(よしの声)

以上で次第3 議題「(2) 報告事項」の「地域自治推進プロジェクト及び令和4年度の地域協議会の取組について」を終了する。

次に次第3 議題「(3) その他」である。本日の議題の他、報告や確認すべき事項等について発言を求める。

【藤田委員】

春日山荘のことは、地域協議会で必ず審議をして地域のために貢献するようなかたちを取らなくてはならないだろうと思う。これから春日山荘がどうなっていくのか。

町内会長との会合もあるはずなので、そこに辿り着くような地域協議会でなければいけないのではないかと。見て見ぬふりをするのではなく、しっかりと協議をして、地元根差した福祉施設として考えていかななくてはならないと思う。

【渡部委員】

大賛成である。実は私は金曜日に水彩画で通っており、高齢者支援課から活動場所を高田地区に移すよう説明を受けて相当反対をした。

そして皆さんご承知のように、直江津の憩いの家で活動することになった。興味深いのは、直江津区地域協議会が憩いの家で来年から活動することを覆した事である。

だから直江津の地域協議会は、良いかどうかは別として「すごいな」と思った。春日区の地域協議会には、その提案すらないのである。

【小林センター長】

身近にある春日山荘が、皆さんにとって大事なものは分かるが、誰もが同じような思いを持つのであって、春日山荘は、施設自体も老朽化し、ランニングコストを数値的に考慮した中で、行政が住民と話し合っ理解をいただいていた経緯があると思う。

【渡部委員】

住民とは誰のことか。

【小林センター長】

地域の方々であり、活動されていた利用者の方々も含む。少しずつ老朽化した建物に対して、市全体で財政的な判断が必要なのではないか。この件はそれを理解した上で、皆さんに判断していただきたいと思う。

【渡部委員】

言いたいことは理解するが、春日山荘をどういうふうにするかということは、きちんと説明してもらっていない。説明がなくてもよいのかもしれないが、例えば耐震構造が悪くて駄目などの説明を、やはりよくしていただきたい。ほとんど上から目線で高田地区にある施設へ移動してくださいでは困る。自転車で行けるから集まるという人が多かった。

【小林センター長】

皆さんが判断する前に市の言い分も聞いていただき、これまでの経緯をよく調べてから結論を出しましょう、と私は言いたかったのである。

【吉田副会長】

センター長もご存知ないので、少し解説をする。

私は4期地域協議会委員を務めてきた。まず春日山荘が受けている現在の趣味講座の一部は、春日保育園の隣に市の施設があった。それを取り壊すために、社会福祉協議会（社協）へ春日山荘の趣味講座は移された。それから補助金はずっとカットされ

ている。

春日山荘では、以前にお風呂の営業をしていたが費用がかかるため廃止した経緯があるし、趣味講座も多分やめたいのだと思う。本音は採算が取れないからであろう。老朽化も一因になるかもしれないが、石橋にある施設に移動する話となった。

そもそも各公民館では独自に事業を行っており、春日の趣味講座はその性格を持っていると思うため、私は「ここに残せ」と言ってよいと思う。

とにかく春日保育園の隣にあった趣味の講座を社協にちゃんとやってもらう条件で地域協議会は了承したのだから、それを構うことは約束違反である。過去に地域協議会はそういった答申をしているので、事務局はちゃんと資料を調べてほしい。

過去に説明いただいているので、再度担当課と社協から経緯等を伺いたい。

【渡部委員】

今さら説明してもらっても、いかななものか。

【吉田副会長】

これまでの経緯を聞いた上で、協議しなければならない。町内会長の中には、春日山荘の行く末を心配していた人もいた。やはり地域の1つの財産であり、私達の権利である。私達としては石橋ではなく、春日謙信交流館という地区の公民館に講座を移すよう提案してもよいのではないか。

だから、いろいろとやり方はあると思うので石橋だけに絞らないで、春日区で講座を継続する策を考えてもよいと思う。

【吉田 義昭委員】

なぜ、石橋へ講座を移す話が始まった時に、経緯の説明を声高に求めなかったのか。

直江津区では反対した結果、2年延期となっている。

【吉田副会長】

直江津区で反対したのは、温浴施設廃止の話である。

【吉田 義昭委員】

春日区には方策がなく、また移設の話を止められる人がいなかったから、この状況になったのではないか。

【太田会長】

講座の移動が保留になったことは、石橋にある施設の風呂の廃止を、直江津区の地域協議会で了承されなかったからと理解している。

【渡部委員】

講座の移転が先に決まっていた。春日山荘から高田の趣味の家へ移動してください、と言われ反対したことから始まる。そして春日謙信交流館でダンスをやってはどうですか、埋蔵文化財センターで水彩画をやってはどうですか、分散させてもよいのではないですか、などと提案してみたが駄目であった。そして来年度から、憩いの家に移しますとの話になったわけである。

そうすると、来年度、石橋に移すためには今年から工事をしなければいけないので、市が直江津区地域協議会に提案をしたら、「お風呂をなくすのは困る」となった。

私は受講生であるが、移転の話は反論の余地もなく告げられた。仕方がないと思っていたが、直江津区地域協議会の力で1年延びるなんて、すごいと思う。

【吉田副会長】

地元住民の反対があり、盛り上がっているわけで、直江津区の地域協議会の力が強いというわけではない。しかも、憩いの家は、市の施設であり管轄が違う。春日山荘は社協が所有のため、市もあまり手が出せない。説明には市と社協の両方から来てもらいたい。

【吉田 義昭委員】

4月10日に、春日山荘の所長さんから現在は15教室程度を開催されていると伺った。また受講生に移転の話を聞いたが、大半の人が経過を説明されていないとのことだった。既成事実だけ伝えて賛同してください、という進め方の行政ならば要らないと思う。きちんと理由を説明し、いきさつなどの流れを汲んで行政を進めるべきだと思う。

私たち福祉分科会は、このように現地視察をして話し合いも進めているが、月1回の会合では進展が難しいと感じている。

【岡本委員】

大変によい意見が出て白熱しているが、緊急的に出た動議であるため、今日は次回の話し合いの方向性を決める所に止めておいた方がよいのではないかと。

【太田会長】

今ほどの話にあった春日山荘については、協議が途中になっているため、次回以降検討してみたい。

以上で次第3 議題「(3) その他」を終了する。

次に次第4「その他」の「(1) 次回開催日の確認」に入る。

次回の地域協議会：6月21日（火）午後6時30分から市民プラザ会議室で開催を予定している。内容については、自主的審議を中心に進めていきたいと思う。

いろいろな担当課等から勉強会として来ていただいているが、時間が押してしまうため、春日山荘の件は、全体で情報共有できる部分だけとし、分科会の協議を進めることとしてよいか。

（よしの声）

春日山荘の件について、事務局でこれまでの経緯等、資料的なものが用意できるのであれば、準備してほしい。

小林センター長の説明にもあったように、春日区だから春日山荘は大事であるが、それぞれの区で事情が違ってくる部分もある。自分たちの区だけという訳にはいかない。これまでの経緯等を復習しながら、皆が納得いくような方向性にしていきたい。

・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 中部まちづくりセンター

TEL：025-526-1690

E-mail：chubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。